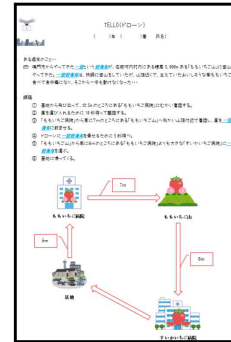


実践地域	佐那河内村（佐那河内小中学校）	
<p>1 本年度の研究テーマ 「特色」と「魅力」ある小中一貫教育の推進 ～「課題をもち、自ら考え、表現し、発信する力」を育てる授業改善～</p>		
<p>2 取組の内容</p>		
<p>(1) 小中9年間の系統性と、特色を大切に「教育課程」の編成と実施</p>		
<p>① 年度当初に各教科の小中9年間のカリキュラムを再検討・実践した。</p>		
<p>[英語教育]</p>		
<p>② スタートカリキュラム（中1） 中学1年生が、小学校の英語担当を中心に構成された単元において、中学校の先生に英語で自己紹介をし、学校のことや将来の夢などについてのやり取りを行った。</p>		
<p>③ 小中交流授業（小6・中2） 中学校英語科教員が、小学生に英語で中学校生活についての紹介を行った。また、「一日の生活を紹介しよう」の単元で、小学生からの中学校生活についての英語での質問に、中学生が英語で回答した。</p>		
		
<p>(2) 「課題をもち、自ら考え、表現し、発信する力」を育てる授業改善</p>		
<p>[ふるさと学習]</p>		
<p>① 学習発表会（小学校）では、児童がタブレット端末を用いて、発表原稿の作成、動画編集を行い、ICTを活用し、工夫しながら発表を行った。</p>		
<p>② 修学旅行（小学校）では児童が自作した佐那河内村のPRパンフレットを、各訪問先の担当者に直接渡し、佐那河内村のPRに貢献した。</p>		
<p>③ 中学校（2年生）では『私たちの宝 佐那河内村』 ～村への提言プロジェクトV～ とくしまマルシェ出店を通して」をテーマに学習を進め、発表会では、村長をはじめ、村議会議員、地域の事業者、保護者へ活動報告した。</p>		
		
<p>④ 英語科とふるさと学習を連携させ、中学3年生の生徒が英語弁論大会に出場し、ふるさと佐那河内村の魅力を発信した。</p>		
<p>⑤ 技術科（中学校）の時間に「けがをした人を助ける」というテーマに沿ってタブレット端末にプログラムを入力し、「ドローンによる医薬品、負傷者の輸送」を実施した。不具合はその場で修正し、試行錯誤を重ねながらドローンの動きを制御した。</p>		
<p>(3) 特色と魅力ある小中一貫教育を維持・改善・推進する学校運営マネジメント</p>		
<p>① 小中合同研修のさらなる充実を進めた。</p>		
<p>② 英語運営協議会により、英語の教育の取組について報告し、運営委員からの意見を集約し、評価・改善する。</p>		
<p>③ 教職員のタブレット活用の継続、発展を目指すため、全国で活躍する講師による研修を行った。さらに実践を多く取り入れた研修を実施した。</p>		



### 3 研究の成果と課題

- (1) 様々な工夫や配慮を施したスタートカリキュラム（中1）により中学校の英語や学校生活にスムーズに移行できている。
- (2) タブレット端末を用いた授業実践により，課題を見つけ考え，表現・発信することが容易となり，児童生徒の学びに向かう意欲が向上した。
- (3) 地域の方とのつながりを大切にする事で，ふるさとに対する誇りとこれからのふるさとを担う自覚が芽生え，そのことを地域の方に自信を持って発表できた。また，小中学生が考える「村への提言」を発信することで，これからも引き続き魅力ある村づくりに取り組む意欲につながった。
- (4) 教職員の異動等によって，小中一貫教育校としての理念がぶれないように，継続して取り組んでいる研修については，引き続き継続して実施する必要がある。
- (5) コロナ禍を経て，学校行事が戻りつつあるが，精選するとともに，研修の効果的な実施の工夫が必要である。